

山形森林管理署最上支署	
タイトル	民国連携による森林共同施業団地設定にむけた研修会
実施年月日	平成25年11月19日(火)
実施場所	山形県最上郡真室川町中央公民館
参加者	局署：東北森林管理局、最上支署 17名 外部：民有林行政機関（山形県林業公社、最上総合支庁、真室川町、金山町、最上町、舟形町、大蔵村、戸沢村） 9名 最上広域森林組合 3名 計 29名
<p><b>【取組の概要】</b> 民有林と連携した森林共同施業団地の取組として、「隣接する民有林と国有林が連携して人工林を効果的に活かしていく」「路網整備、森林施業、素材出荷などを一体的に実施する」「民有林の施業集約化の促進に資することを念頭に置く」の3点をポイントとし、</p> <p>① 路網整備の一体的な内容として、㊦民有林と国有林の路網を連結、①林業専用道、森林作業道及び土場等の搬出施設の相互利用</p> <p>② 森林施業の一体的な内容として、現地検討会の開催(作業システム等の共同検討)や事業ロットの拡大</p> <p>③ 素材出荷の一体的な内容として、㊦出荷先の情報共有及び協調出荷、①民国で連携した安定供給システム販売の推進</p> <p>3点の各ポイントについて実施できる体制を確立させる。</p>	
<p><b>【取組の成果】</b> 民有林と連携した共同施業団地の取組では、ポイント、事例紹介、今後の取組方向を、公益的機能維持増進協定では、協定制度、森林整備の進め方、活用イメージとして適切な路網整備、間伐遅れによる影響回避、猛禽類の生息環境改善を、それぞれ紹介した。</p> <p>また、民国連携森林施業団地設定を目指すために行う今後の森林施業では、低コスト作業システムの確立、列状間伐の推進、長期間使用可能な(壊れにくい)森林作業道の作設、民国連携の販売対策、低コスト造林の開発・普及、集約化施業の推進、そして新たな施業開発も必要不可欠であること、今後は伐採量の増加が伴うことから民国連携森林施業団地を積極的に推進し森林を活かすことが重要との講義内容となった。</p> <p>市町村によって温度差はあるものの、「民国連携は是非必要との考え」の中で、別途打合せが進む地区もあらわれるなど有意義な結果となった。</p>	
<p><b>【出された意見等】</b></p> <p>・質問</p> <p>① 民国連携した森林施業団地の事業実行も一般競争で行うのか</p> <p>② 東北森林管理局管内の13協定締結の相手方は民国が同じ事業体なのか</p> <p>・報告</p> <p>地元所有者の同意がなかなか得られないが、真室川地区では3団体が集約化できている。所有者からの同意を得るのは本当に難しい。</p>	
<p><b>【今後の課題】</b> 今回は、座学による研修会のみ開催であったものの、民国連携に対する取組を進展、拡大させ森林施業等の一体的な取組を行いつつ、協定締結に向け、民有林側との調整を図り、設定後のメリット、デメリット等を身近で感じられる(目に見える)現地検討会に繋げていきたい。</p>	

タイトル

民国連携による森林共同施業団地設定にむけた研修会



参加者受講の様子



民国連携森林施業団地設定について  
公益低機能維持増進協定について



今後の森林施業について



参加者からの質問



団地集約化状況報告

今回の参加者が、民国共同施業を推進する重要性を理解・認識できた研修会となった。